



株式会社メディカルー光グループ

2021年2月期決算説明会

2021年4月14日

イベント概要

[企業名]	株式会社メディカルー光グループ		
[企業 ID]	3353		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2021 年 2 月期決算説明会		
[決算期]	2020 年度 通期		
[日程]	2021 年 4 月 14 日		
[ページ数]	36		
[時間]	13:30 – 14:06 (合計：36 分、登壇：26 分、質疑応答：10 分)		
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 3 階 第 3 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)		
[会場面積]	145 m ²		
[出席人数]	26 名		
[登壇者]	2 名		
	代表取締役社長	南野 利久 (以下、南野)	
	代表取締役専務取締役	櫻井 利治 (以下、櫻井)	

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

登壇

司会：それでは、定刻でございますので、ただ今から、株式会社メディカルー光グループ様の第36期、2021年2月期決算説明会を開催いたします。

最初に、会社様からお迎えしてございます2名様をご紹介します。まず、代表取締役社長、南野利久様でございます。

南野：南野でございます。よろしくお願いいたします。

司会：続きまして、代表取締役専務取締役、櫻井利治様でございます。

櫻井：櫻井でございます。よろしくお願いいたします。

司会：本日は、ただ今ご紹介申し上げましたお二人様からご説明をいただきます。ご説明終了後に質疑応答の時間を設けておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、先ほど皆様方にご配布申し上げました資料の中に、アンケート用紙が入っていたかと存じますが、こちらにつきましてもご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、最初に南野社長様から、どうぞよろしくお願いいたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



1. 連結決算業績

(百万円)

	第34期 (2019.2期)	第35期 (2020.2期)	第36期 (2021.2期)	前期 増減額
売上高	31,222	32,042	31,603	△ 439
営業利益	1,043	1,204	1,030	△ 174
経常利益	1,053	1,225	1,204	△ 21
税引前利益	1,168	1,272	1,443	171
親会社株主に帰属する 当期純利益	711	801	836	35

4

南野：それでは、早速ではございますが、決算説明に移らせていただきたいと思います。

まず、こちらは3期分の売上・営業利益・経常利益・税引前利益でございます。

売上高につきましては、前期に比べまして微減となっております。4億3,900万円のマイナス、営業利益は1億7,400万円のマイナス、経常利益は2,100万円のマイナスであります。

税引前利益につきましては、株式売却益等がございまして、1億7,100万円の増額となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. 連結決算セグメント別売上高

(百万円)

	第34期 (2019.2期)		第35期 (2020.2期)		第36期 (2021.2期)		前期 増減額	前期比 (%)
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比		
調剤薬局事業	22,452	71.9%	22,898	71.5%	22,038	69.7%	△ 860	△3.8%
ヘルスケア事業	5,982	19.2%	6,250	19.5%	6,680	21.2%	430	6.9%
医薬品卸事業	2,551	8.2%	2,661	8.3%	2,657	8.4%	△ 4	△0.2%
不動産事業	234	0.7%	232	0.7%	227	0.7%	△ 5	△2.2%
売上高	31,222	100.0%	32,042	100.0%	31,603	100.0%	△ 439	△1.4%

5

こちらは、セグメント別売上高であります。調剤薬局事業、ヘルスケア事業、医薬品卸事業、不動産事業の売上高の推移でございます。

35期と比較いたしまして、36期は調剤薬局事業が8億6,000万円のマイナス、前期比3.8ポイントであります。ヘルスケア事業は、M&Aで1社グループ化をいたしましたので4億3,000万円増額になっておりまして、6.9ポイントプラスであります。医薬品卸事業、それと不動産事業は横ばいございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

3. 連結決算セグメント別税引前利益

(百万円)

	第34期 (2019.2期)		第35期 (2020.2期)		第36期 (2021.2期)		前期 増減額	前期比 (%)
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比		
調剤薬局事業	620	53.1%	677	53.2%	694	48.1%	17	2.5%
ヘルスケア事業	186	15.9%	320	25.2%	258	17.9%	△ 62	△ 19.3%
医薬品卸事業	68	5.8%	82	6.4%	82	5.7%	0	0.0%
不動産事業	99	8.5%	122	9.6%	112	7.8%	△ 10	△ 8.2%
投資事業	193	16.5%	71	5.6%	297	20.6%	226	313.7%
税引前利益	1,168	100.0%	1,272	100.0%	1,443	100.0%	171	13.5%

6

こちらは、セグメント別の利益でございます。

調剤薬局事業は、昨年度を結果といたしまして、上回ることになりました。1,700万円の増額となっております。

ヘルスケア事業におきましては、デイサービス等で利用者が減りましたことと併せて、M&Aの費用が発生したことによりまして、前期に比べて6,200万円減額となりました。

医薬品卸事業、不動産事業は横ばいでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

4. 投資額実績【3期推移】

(百万円)

	第34期 (2019.2期)	第35期 (2020.2期)	第36期 (2021.2期)
調剤薬局事業	929	101	147
ヘルスケア事業	444	23	1,064
医薬品卸事業	49	2	1
不動産事業	91	145	219
その他(本社等)	315	35	46
合計	1,828	308	1,480

7

こちらは、投資実績であります。

先ほど申し上げましたように、ヘルスケア事業は M&A を 1 社いたしましたので 10 億 6,400 万円の投資になっております。調剤薬局事業は 1 億 4,700 万円、不動産事業は 2 億 1,900 万円、その他を入れまして 14 億 8,000 万円の投資を行っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

5. 業績および資産負債等の推移【5期推移】

(百万円)

期	期間	売上高	経常利益	経常利益率	税引前利益	税引前利益率	親会社株主に帰属する当期純利益	純資産	現預金	期末借入金	投資
第32期	2016.03.01~2017.02.28	29,489	1,153	3.9%	1,566	5.3%	956	8,095	5,262	11,054	1,568
第33期	2017.03.01~2018.02.28	30,914	1,384	4.5%	1,939	6.3%	1,238	9,300	5,655	10,039	983
第34期	2018.03.01~2019.02.28	31,222	1,053	3.4%	1,168	3.7%	711	9,551	5,306	10,805	1,828
第35期	2019.03.01~2020.02.29	32,042	1,225	3.8%	1,272	4.0%	801	10,170	5,694	9,912	308
第36期	2020.03.01~2021.02.28	31,603	1,204	3.8%	1,443	4.6%	836	10,486	7,003	11,602	1,480

※百万円以下を切り捨てて掲載しています。

8

こちらは、業績と資産・負債等の推移であります。5年分をここに示させていただいております。

32期の売上は294億円、309億円、312億円、320億円、今期は316億円となりまして、前期に比べて、先ほど申し上げましたように4億円減収となっております。

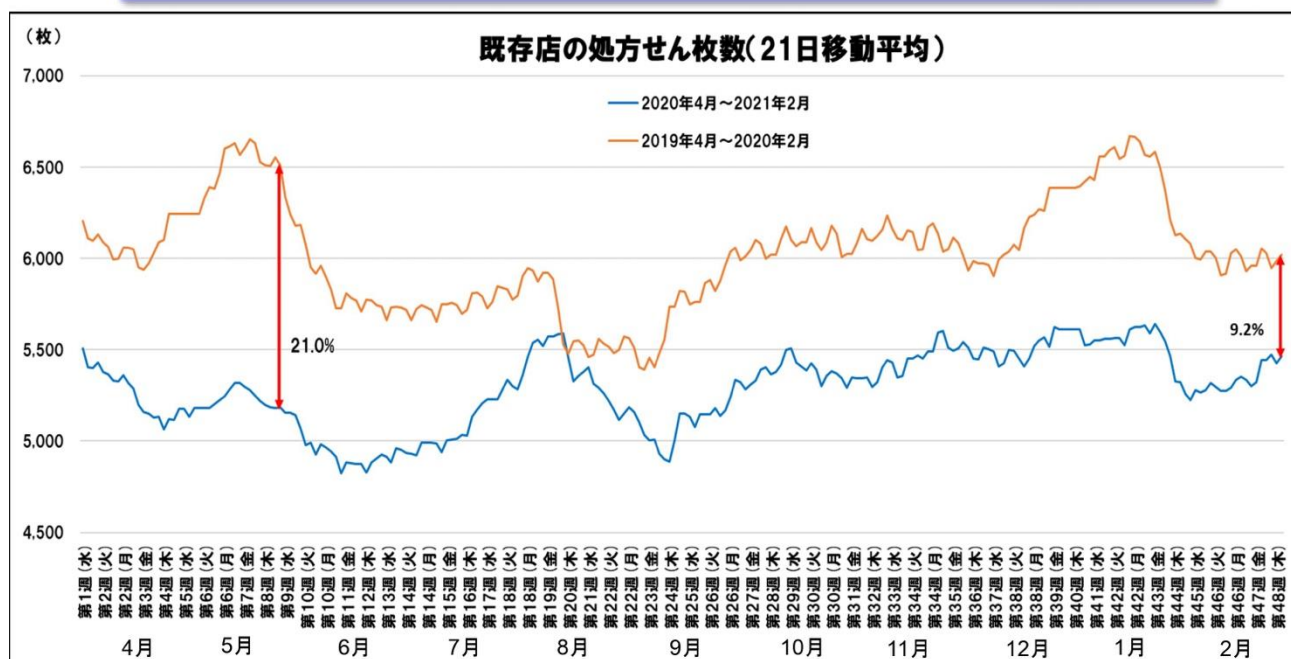
借入は、5年前は110億円でしたが、ほぼその水準と変わらない水準でございまして、116億円の借入残と、昨年と比べて借入の増えている分は、現預金が増加をいたしております。

収益率は、経常利益率は昨年とほぼ横ばいでございました。3.8%で、全く同じであります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

1. 調剤薬局事業の概況 (1) 新型コロナウイルスの影響



※土日祝を除く実績を元に算出(第1週(水)は2019年4月3日、2020年4月1日)

10

こちらは、新型コロナウイルスの影響をどのように受けたかというのをグラフで示させていただいたものであります。

上のグラフが35期のグラフであります。下のグラフが36期のグラフでございますけれども、これは3月1日を起点といたしました平日の、21日処方せん枚数の移動平均を表したものであります。

ですから、上は一昨年ですね、こちらは昨年となるわけですがけれども、一番開いたのが昨年の5月でございます、一時期8月にはほぼ追いついたようになりましたけれども、その後、またコロナの影響が当社の薬局の受け付け枚数に影響が生まれて、最終の2月には9.2%にまでなったということであります。

1枚当たりの処方せん単価が増加をしておりますので、この拡大が必ずしも売上にそのまま影響したというわけではございません。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

1. 調剤薬局事業の概況
(2) 売上推移(全店舗)

(百万円)				
	第35期 (2020.2期) 累計	第36期 (2021.2期) 累計	前期 増減額	前期比 (%)
処方せん枚数	1,916千枚	1,699千枚	△ 217	△11.3%
売上高	22,898	22,038	△ 860	△3.8%
薬剤料	18,551	18,043	△ 508	△2.7%
技術料	4,259	3,913	△ 346	△8.1%
その他	86	82	△ 4	△6.5%
(円)				
処方せん単価	11,903	12,923	1,020	8.5%
薬剤料単価	9,680	10,620	940	9.6%
技術料単価	2,223	2,303	80	3.6%

11

こちらは、処方せん枚数と売上高の明細でございます。

処方せん枚数は191万6,000枚から169万9,000枚に減りまして、21万7,000枚、枚数として減りました。

売上高は8億6,000万円減でございました。薬剤料の売上が185億円から180億円に減りましたが、薬剤料単価は9,680円から1万620円になりまして、10%近く1枚当たりの薬剤料の単価が増えたということでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

1. 調剤薬局事業の概況

(3) 売上・営業利益・経常利益(四半期推移)



(百万円)

売上	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
第36期 (2021.2期)	5,580	5,444	5,531	5,481	22,038
第35期 (2020.2期)	5,799	5,689	5,667	5,741	22,898
前期増減額	△219	△245	△136	△260	△860
前期比(%)	△3.8%	△4.3%	△2.4%	△4.5%	△3.8%

(百万円)

営業利益	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
第36期 (2021.2期)	78	115	268	200	661
第35期 (2020.2期)	211	145	129	187	672
前期増減額	△133	△30	139	13	△11
前期比(%)	△63.0%	△20.7%	107.8%	7.0%	△1.6%

(百万円)

経常利益	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
第36期 (2021.2期)	69	128	329	226	752
第35期 (2020.2期)	213	152	128	205	698
前期増減額	△144	△24	201	21	54
前期比(%)	△67.6%	△15.8%	157.0%	10.2%	7.7%

12

こちらは、四半期ごとの売上高・営業利益・経常利益であります。調剤薬局事業の概況でございます。

35期と36期の経常利益、一番下を見ていただきたいんですけども。35期の前期は3億6,500万円でございます。36期が1億9,700万円ございまして、この3月から8月までの間が一番影響を受けたということが、この経常利益に表れております。

それが、8月までですけども、9月からは36期が5億5,500万円になりまして、35期が3億3,300万円でございますので、一昨年よりも昨期のほうが2億円ほど下期は上回ったということがあります。これは補助金等の収入がございましたので、そういったことが良化した原因でもございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



1. 調剤薬局事業の概況

(4) 売上高労務比率〔四半期推移〕

(%)

売上高労務比率	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
第36期 (2021.2期)	15.2%	15.9%	15.2%	15.2%	15.4%
第35期 (2020.2期)	14.7%	15.6%	15.7%	15.1%	15.3%
前期比(%)	0.5%	0.3%	△0.5%	0.1%	0.1%

13

こちらは、当社の労務比率でございます。

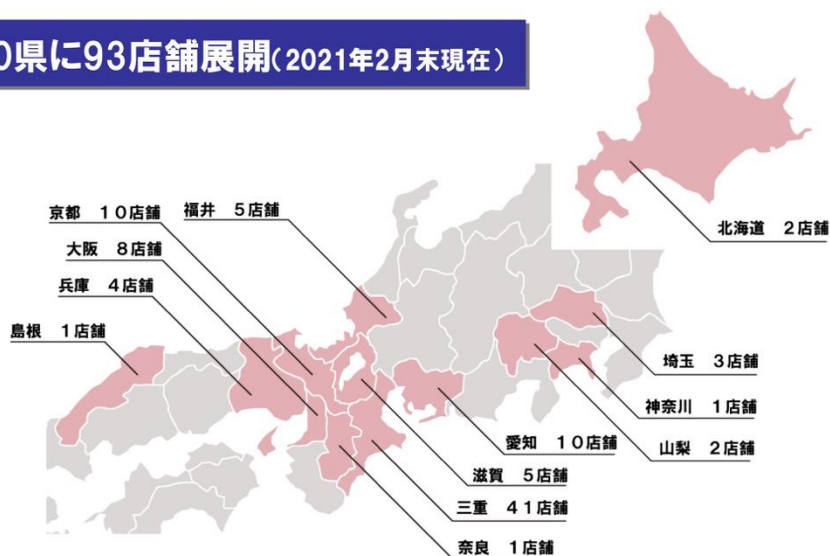
売上が8億6,000万円減っておりますので、その分をそのまま労務費で運営すれば、約0.5ポイント増えてしまうということでもあります。ですから、35期と36期を比較いただいたら、昨年と一昨年はほぼ同じ労務比率で終えることができた。売上分の減少分を、労務費を抑えることによってカバーをしたということでもあります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

1. 調剤薬局事業の概況 (5) 店舗展開地域

1道2府10県に93店舗展開(2021年2月末現在)



	第32期 (2017.2期)	第33期 (2018.2期)	第34期 (2019.2期)	第35期 (2020.2期)	第36期 (2021.2期)
開局店舗数	1	2	2	2	1
M&A取得店舗数	1	0	1	0	0
退店数	1	3	1	4	1
期末店舗数	94	93	95	93	93

14

こちらは、当社の展開する日本地図でございますけれども、店舗数は昨年と同じでございます。1店舗開局して、1店舗閉店をいたしました。

サポート

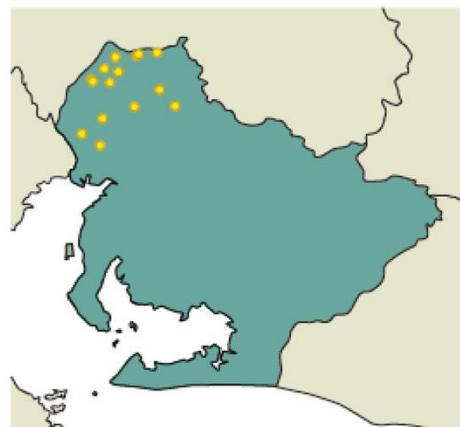
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. ヘルスケア事業の概況

(1) M&A(令和2年11月1日子会社化)

株式会社ライフケア

所在地	愛知県一宮市	
社員数	221人	
売上高	1,459百万円 (2020年2月期)	
事業所	愛知県に15拠点 住宅型有料老人ホーム 居宅介護支援事業所 通所介護事業所 訪問介護事業所	14施設 3事業所 1事業所 1事業所



15

先ほどお話ししましたように、ヘルスケア事業で M&A を 1 件行いました。

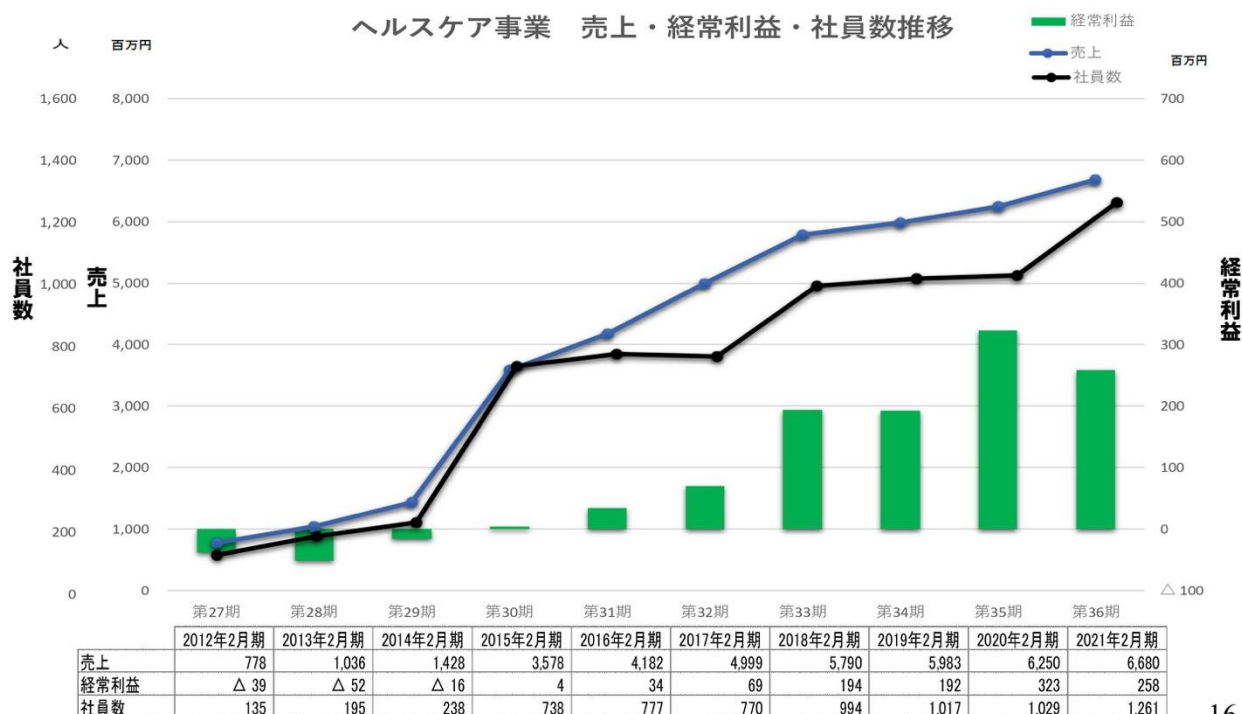
愛知県の一宮にございます、ライフケアという会社でございます。14 拠点ございまして、住宅型有料老人ホームを展開いたしております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. ヘルスケア事業の概況

(2) 売上・経常利益・社員数【10年推移】



16

こちらは、ヘルスケア事業の10年間の売上高・経常利益・社員数をグラフ化したものでございます。

売上高は10年でほぼ10倍になりました。経常利益は、当初3年間は赤字でございましたけれども、4年ぐらい前から2億円ぐらいのペースになりまして、一昨年は3億2,300万円、昨年は2億5,800万円でございました。こちらの緑の棒グラフが経常利益であります。売上と社員数の推移であります。

調剤事業は横ばいが続く中で、当社の成長エンジンは、ヘルスケア事業になっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. ヘルスケア事業の概況

(3) 売上・営業利益・経常利益(四半期推移)

(百万円)

売上	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
第36期 (2021.2期)	1,536	1,567	1,687	1,888	6,680
第35期 (2020.2期)	1,537	1,569	1,602	1,541	6,250
前期増減額	△1	△2	85	347	430
前期比(%)	△0.1%	△0.1%	5.3%	22.5%	6.9%

(百万円)

営業利益	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
第36期 (2021.2期)	46	76	21	22	167
第35期 (2020.2期)	63	94	110	46	315
前期増減額	△17	△18	△89	△24	△148
前期比(%)	△27.0%	△19.1%	△80.9%	△52.2%	△47.0%

(百万円)

経常利益	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
第36期 (2021.2期)	55	78	59	66	258
第35期 (2020.2期)	67	97	110	49	323
前期増減額	△12	△19	△51	17	△65
前期比(%)	△17.9%	△19.6%	△46.4%	34.7%	△20.1%

17

こちらはヘルスケアの四半期ごとの売上高・営業利益・経常利益になっております。

経常利益は、先ほども説明しましたように、35期に比べまして減額になっております。これはデイサービス等で利用者が減ったことと、それとM&Aの費用が発生したということであります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. ヘルスケア事業の概況

(4) 売上高労務比率〔四半期推移〕

(%)

売上高労務比率	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
第36期 (2021.2期)	52.4%	51.0%	52.0%	52.2%	51.9%
第35期 (2020.2期)	51.6%	50.7%	49.6%	51.9%	51.0%
前期比(%)	0.8%	0.3%	2.4%	0.3%	1.0%

18

こちらは、ヘルスケア事業の労務比率でございます。

35期と比べて、36期が0.9ポイント増加をしたと。これは売上減と、新しい会社が傘下に入りま
したので、その影響があったと思っております。

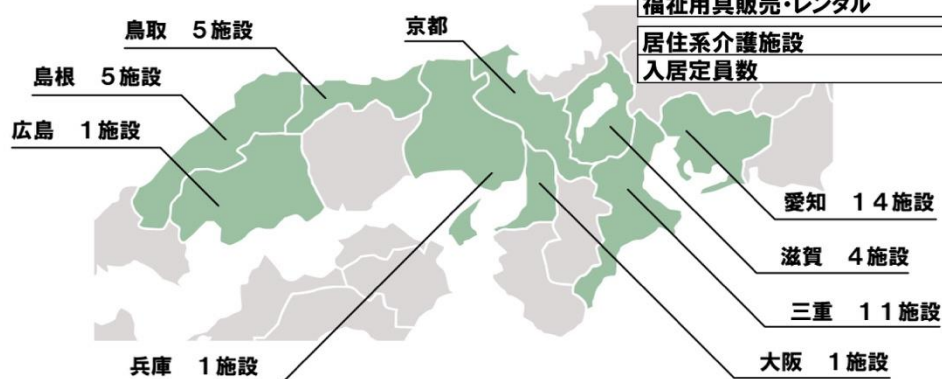
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. ヘルスケア事業の概況 (5)施設開設マップ

三重県・愛知県・大阪府・滋賀県・
京都府・兵庫県・広島県・鳥取県・
島根県の2府7県に展開

ヘルスケア事業展開マップ(居住系介護施設数)



第36期 (2021.2期)	
有料老人ホーム	34 施設
サービス付き高齢者向け住宅	1 施設
グループホーム	7 施設
ショートステイ	1 施設
小規模多機能ホーム	10 施設
通所介護事業所	22 事業所
居宅介護支援事業所	17 事業所
訪問介護事業所	7 事業所
福祉用具販売・レンタル	7 拠点
居住系介護施設	42 施設
入居定員数	1,417 人

※「居住系介護施設数」……有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム

19

こちらは、当社が展開する9府県で現在ヘルスケア事業を展開しております。その地図でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2. ヘルスケア事業の概況



(6) 居住系介護施設入居状況推移【3期推移】

株式会社メディカルグループ

	第34期 (2019.2期)	第35期 (2020.2期)	第36期 (2021.2期)	前期 増減
居住系介護施設数	27	28	42	14
居室数(室)	996	1,025	1,417	392
入居者数(人)	917	937	1,265	328
平均入居率	92.1%	91.4%	90.3%	△1.1%

*「居住系介護施設数」……有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム

20

こちらは、入居状況を表しております。

今現在、居室数は1,417部屋所有しておりますけれども、入居者数が1,265名になっておりまして、約9割の部屋で入居をしていただいております。業界の大体平均的な数字より少し上回るぐらいだと思います。

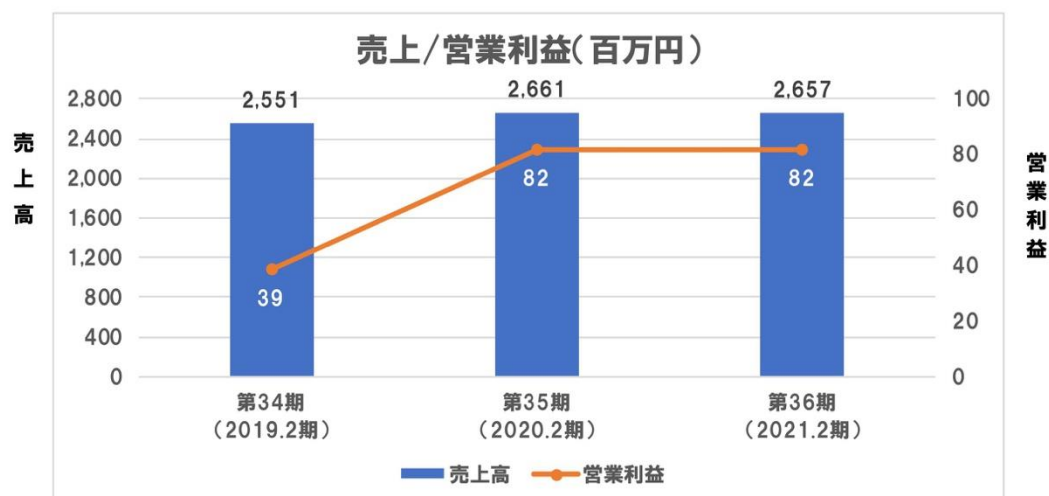
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



3. 医薬品卸事業の概況

(1) 売上・営業利益[3期推移]



21

こちらは、当社の医薬品卸事業の概況でございます。

売上高は、もう3期ほぼ横ばいございまして、利益もほぼ横ばいでありまして、厳しい薬価改定の影響を受けて、売上がなかなか伸ばせないでいるという、こういう状況下でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

過去3期推移と第37期(2022年2月期)計画

(百万円)

	第34期 (2019.2期)	第35期 (2020.2期)	第36期 (2021.2期)	第37期計画 (2022.2期)	前期比 (%)
売上高	31,222	32,042	31,603	33,450	5.8%
営業利益	1,043	1,204	1,030	1,240	20.3%
経常利益	1,053	1,225	1,204	1,290	7.1%
(%)	(3.4%)	(3.8%)	(3.8%)	(3.9%)	
税引前利益	1,168	1,272	1,443	1,450	0.4%
(%)	(3.7%)	(4.0%)	(4.6%)	(4.3%)	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	711	801	836	870	4.0%

23

これは、37期の計画であります。

36期に比べまして、売上は5.8ポイント増、334億5,000万円を計画しております。営業利益におきましても20.3ポイント増、12億4,000万円。経常利益は12億9,000万円。税引前利益も14億5,000万円を計画しております。

以上をもちまして、私の説明を終わらせていただきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

III. 連結財務諸表の概要

1. 連結損益計算書
2. 連結貸借対照表
3. 自己資本利益率(ROE)の推移
4. 総資産利益率(ROA)の推移
5. 借入金と運用
6. 連結キャッシュ・フロー
7. 株式分割
8. 1株当たりの当期純利益・配当金

24

櫻井：櫻井と申します。今、こちらにお示しの連結財務諸表の概要ということで、1番から8番の内容に基づいてご報告をさせていただきたいと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

1. 連結損益計算書

(百万円)

	第35期 (2020.2期)		第36期 (2021.2期)		前期 増減額	
		構成比		構成比		
売上高	32,042	100.0%	31,603	100.0%	△ 439	売上高 調剤薬局事業 22,038 ヘルスケア事業 6,680 医薬品卸事業 2,657 不動産事業 227
売上原価	28,602	89.2%	28,400	89.8%	△ 202	
売上総利益	3,439	10.7%	3,203	10.1%	△ 236	
販管費	2,234	6.9%	2,172	6.8%	△ 62	
営業利益	1,204	3.7%	1,030	3.2%	△ 174	
経常利益	1,225	3.8%	1,204	3.8%	△ 21	
税引前利益	1,272	3.9%	1,443	4.5%	171	税引前利益 調剤薬局事業 694 ヘルスケア事業 258 医薬品卸事業 82 不動産事業 112 投資事業 297
親会社株主に帰属する 当期純利益	801	2.4%	836	2.6%	35	

※百万円以下を切り捨てて掲載しています。

25

まず、連結損益計算書でございます。

先ほど既にご報告させていただいておりますので、詳細部分については省略させていただきますけれども、その決算概要ということで、売上が316億円と、前期対比で4億3,900万円の減収。

一方、下段になりますけれども、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては8億3,600万円と、前期対比で3,500万円の増益になったことで、減収増益で2021年2月期の決算を終えることができました。

なお、こちらに売上高、下段でございますけれども、税引前利益のセグメントごとの実績につきましては、お示しのとおりでございますので、説明は省略させていただきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. 連結貸借対照表(資産)

(百万円)

	第35期 (2020.2期)		第36期 (2021.2期)		前期 増減額
		構成比		構成比	
流動資産	12,183	46.5%	13,654	47.8%	1,471
現預金	5,694	21.7%	7,003	24.5%	1,309
売掛金	4,660	17.8%	4,737	16.6%	77
商品	1,141	4.4%	1,095	3.8%	△ 46
その他	687	2.6%	819	2.9%	132
有形固定資産	9,986	38.1%	10,114	35.4%	128
建物・構築物	6,309	24.1%	6,185	21.7%	△ 124
土地	3,158	12.1%	3,176	11.1%	18
その他	518	2.0%	752	2.6%	234
無形固定資産	1,373	5.2%	1,933	6.8%	560
のれん	1,209	4.6%	1,780	6.2%	571
その他	164	0.6%	152	0.5%	△ 12
投資その他の資産	2,649	10.1%	2,852	10.0%	203
投資有価証券	1,149	4.4%	1,090	3.8%	△ 59
敷金及び保証金	739	2.8%	907	3.2%	168
その他	760	2.9%	854	3.0%	94
資産合計	26,193	100.0%	28,555	100.0%	2,362

※百万円以下を切り捨てて掲載しています。

26

続きまして、26 ページ、連結貸借対照表でございます。

2021年2月期の資産合計につきましては、こちらでお示しのとおり、285億5,500万円、前期末対比で23億6,200万円増加という総資産の残高になっております。

内訳でございますけれども、流動資産で14億7,100万円増加の136億5,400万円となっております。主な増加要因でございますけれども、お示しのとおり現預金が前期末対比で13億900万円増加していることが主な要因でございます。

続きまして、有形固定資産でございますけれども、1億2,800万円増加の101億1,400万円の残高になっております。

無形固定資産につきましては、5億6,000万円増加の19億3,300万円の残高でございます。こちらは、先ほど報告させていただいておりますように、昨年1社、M&Aでグループ入りしてもらっている関係で、そののれんの残高が、お示しのとおり増加しているのが主な要因でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

投資その他等の資産でございますけれども、こちらは2億300万円増加の28億5,200万円の残高になっております。こちらは敷金及び保証金のところで、1億6,800万円増加しているのが主な要因でございます。こちらにもグループ入りした企業の増加分が、主に反映されている数字でございます。



2. 連結貸借対照表(負債・資本)

(百万円)

	第35期 (2020.2期)		第36期 (2021.2期)		前期 増減額
		構成比		構成比	
流動負債	7,999	30.5%	9,098	31.9%	1,099
買掛金	3,332	12.7%	3,445	12.1%	113
1年内返済長期借入金等	3,134	12.0%	3,991	14.0%	857
未払法人税	345	1.3%	359	1.3%	14
その他	1,186	4.5%	1,301	4.6%	115
固定負債	8,022	30.6%	8,971	31.4%	949
長期借入金	6,777	25.9%	7,611	26.7%	834
退職給付に係る負債	595	2.3%	696	2.4%	101
その他	649	2.5%	663	2.3%	14
負債合計	16,022	61.2%	18,069	63.3%	2,047
純資産	10,170	38.8%	10,486	36.7%	316
資本金	917	3.5%	917	3.2%	0
資本剰余金	837	3.2%	853	3.0%	16
利益剰余金	8,572	32.7%	9,247	32.4%	675
自己株式	△ 280	△ 1.1%	△ 541	△ 1.9%	△ 261
その他	124	0.5%	9	0.0%	△ 115
負債・資本合計	26,193	100.0%	28,555	100.0%	2,362

※百万円以下を切り捨てて掲載しています。

27

続きまして、負債・資本の部でございます。

まず、流動負債でございますけれども、前期末比10億9,900万円増加の、残高ベースで申し上げますと90億9,800万円の残高でございます。固定負債につきましては9億4,900万円の増加で89億7,100万円。負債合計にしますと、20億4,700万円増加の180億6,900万円の残高となっております。

こちらの主な要因は、1年内の返済の長期借入金も含めた借入残高が、合計で16億9,100万円、前期と比較しまして増加しております。その関係で、先ほど申し上げました負債合計20億4,700万円増加しているという結果になっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



続きまして、純資産でございます。純資産につきましては、前期末比 3 億 1,600 万円増加の残高ベースで 104 億 8,600 万円になっております。

その内訳でございますけれども、利益剰余金で 6 億 7,500 万円の増加、一方、自己株式ですとか株式の評価差益等を計上しております関係で、先ほど申し上げましたように、純資産の増加ベースで申し上げますと、前期末対比 3 億 1,600 万円の増加という数字になっております。



3. 自己資本利益率(ROE)の推移【3期推移】 株式会社メディカルー光グループ

メディカルー光グループのROE (百万円)

決算期	第34期 (2019.2期)	第35期 (2020.2期)	第36期 (2021.2期)
自己資本 (期末)	9,551	10,170	10,486
自己資本 (期中平均)	9,426	9,861	10,328
親会社株主に帰属する 当期純利益	711	801	836
自己資本利益率 (ROE)	7.5%	8.1%	8.1%

*ROE(Return On Equity) = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 自己資本(期中平均)



28

続きまして、28、29 ページと、自己資本利益率および総資産利益率の推移をお示ししております。

まず、自己資本利益率の推移でございますけれども、算出につきましては、こちらでお示しの当期純利益を自己資本、期首と期末の平均で除して算出させていただいております。

期中平均の自己資本も 4 億 6,700 万円増加し、一方、当期純利益も先ほど申し上げましたように 3,500 万円増加しておるわけですが、自己資本利益率としますと、前期と同様に 8.1%になっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



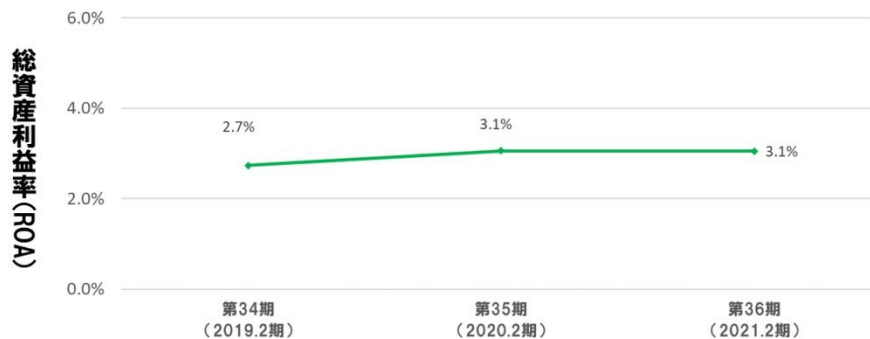
4. 総資産利益率(ROA)の推移【3期推移】

メディカルー光グループのROA

(百万円)

決算期	第34期 (2019.2期)	第35期 (2020.2期)	第36期 (2021.2期)
総資産 (期末)	26,214	26,193	28,555
総資産 (期中平均)	25,969	26,204	27,374
親会社株主に帰属する 当期純利益	711	801	836
総資産利益率 (ROA)	2.7%	3.1%	3.1%

*ROA(Return On Assets) = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 総資産 (期中平均)



29

続きまして、総資産利益率でございます。こちらも期中平均ということで、期首の総資産および期末の総資産を割って平均を出しております。

こちらも総資産が11億7,000万円、期中平均で増加しておりますけれども、昨年同様の総資産利益率としましたら3.1%という数字になっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

5. 借入金と運用【2021年2月期】

■ 借入金と運用のバランス

(百万円)

	①現預金	②投資 有価証券	③借入金	④ (①+②-③)	⑤賃貸不動産 簿価	⑤-④ 資産-借入
グループ連結	7,003	1,141	11,602	△ 3,458	1,203	△ 2,255
メディカルー光グループ	4,940	90	3,358	1,672	863	2,535
ハピネライフー光	1,556	1	7,098	△ 5,541	0	△ 5,541
ヘルスケア・キャピタル	507	1,050	1,146	411	340	751

メディカルー光グループは、調剤薬局事業、医薬品卸事業を運営する子会社を含む
ハピネライフー光は、ヘルスケア事業を運営する子会社を含む

■ 賃貸不動産の稼働実績

(百万円)

	①取得価格	②期末簿価	③年間賃料	利回り③/① (取得価格ベース)	利回り③/② (期末簿価ベース)
グループ全体	2,235	1,203	171	7.7%	14.2%
メディカルー光グループ	1,297	863	64	5.0%	7.5%
ヘルスケア・キャピタル	937	340	106	11.4%	31.4%

30

続きまして、30ページでございます。借入金と、その運用状況についてご報告させていただきます。

こちらでお示ししておりますのは、グループ本社、調剤薬局事業、医薬品卸事業をメディカルー光グループというところに表示させていただいております。一方、ヘルスケア事業を運用しておりますハピネライフー光、そして投資関係のヘルスケア・キャピタルと、この3区分に分けて、この表は作成しております。

グループ全体でいきますと、一番右側の欄でございますけれども、借入金の超過額が22億5,500万円という数字になっております。一方、それぞれの事業ごとに内容を見ますと、メディカルー光グループですと、25億3,500万円の資産超過、ハピネライフー光につきましては、逆に借入超過額が55億4,100万円、投資関係のヘルスケア・キャピタルで申しますと7億5,100万円の資産超過ということで、冒頭に申し上げましたグループ全体では22億5,500万円の借入額となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

続きまして、下段の表でございます。こちらは賃貸不動産の稼働実績をご報告するものでございます。グループ全体で取得価格 22 億 3,500 万円でございますが、この期末の期末簿価につきましては、12 億 300 万円の簿価でございます。

利回りベースで申しますと、取得価格ベースの利回りは 7.7%、一方、期末簿価ベースでいきますと 14.2%と、安定的な収入確保を維持することに努めておる状況でございます。

6. 連結キャッシュ・フロー



	(百万円)		(百万円)	
	第35期 (2020.2期)	第36期 (2021.2期)		
営業活動による キャッシュ・フロー	1,823	1,822	【営業活動によるCF/概要】	
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 375	△ 1,180	税金等調整前当期純利益	1,443
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,092	590	減価償却費、のれん償却額	835
現金等の増減額	355	1,232	法人税等の支払額	△ 607
現金等の期末残高	5,572	6,805	【投資活動によるCF/概要】	
			投資有価証券の売却	1,124
			子会社株式の取得	△ 665
			有形固定資産の取得	△ 470
			投資有価証券の取得	△ 1,108
			【財務活動によるCF/概要】	
			借入金の純増加額	1,065
			配当金の支払い	△ 160

31

続きまして、連結のキャッシュ・フローでございます。

こちらにお示しのとおり、営業活動、投資活動、そして財務活動によるキャッシュ・フローの実績につきましては、こちらにお示しのとおりでございます。この3区分のキャッシュ・フローの結果、2021年2月期の現預金の期末残高につきましては、12億3,200万円増加の68億500万円の期末残高となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



7. 株式分割

2021年3月1日を効力発生日として 1:2の株式分割を実施

	分割前	分割後
発行済株式数	2,035,000 株	4,070,000 株

32

続きまして、配当金等についてご報告させていただきます。

まず、お示しのとおり、2021年3月1日を効力発生日として、普通株式1株当たり、2株に株式分割を実行させていただいております。したがって、発行済み株式数は、分割前は203万5,000株が、分割後は407万株になっております。

サポート

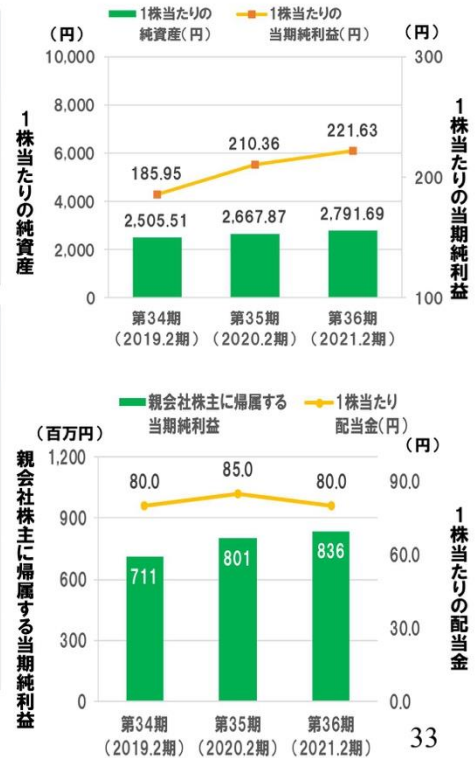
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

8. 1株当たりの当期純利益・配当金

(百万円)			
	第34期 (2019.2期)	第35期 (2020.2期)	第36期 (2021.2期)
経常利益	1,053	1,225	1,204
税引前当期純利益	1,168	1,272	1,443
親会社株主に帰属する 当期純利益	711	801	836

	第34期 (2019.2期)	第35期 (2020.2期)	第36期 (2021.2期)
1株当たりの 当期純利益(円)	185.95	210.36	221.63
1株当たりの 純資産(円)	2,505.51	2,667.87	2,791.69
1株当たり 配当金(円)	80.0	85.0	80.0
配当金総額 (千円)	152,890	162,025	150,254

※当社は2021年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。第34期についても同様の基準でお示しております。



こちらが、1株当たりの当期純利益および配当金をお示した表でございます。

期末の配当につきましては、3月26日の取締役会において、分割後の水準でいきますと1株当たり20円、分割前の基準でいきますと40円で、当初開示させていただいたとおりの内容で決議し、同日に配当金の部分については、5月6日を効力発生日としてお支払いするという事で開示をさせていただきます。

年間の配当金につきましては、中間配当も含めまして、分割前の基準でございますけれども、年間80円ということで、当初計画どおりの配当を予定しております。

年間の配当金総額につきましては、一番下段でございますけれども、1億5,025万4,000円を予定しております。

以上、簡単でございますけれども、私からは連結財務諸表等についてのご報告とさせていただきます。

司会：ご説明ありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

質疑応答

司会：それでは、この後は質疑応答の時間でございます。質問のある方は、挙手をしてご発言をいただきたいと思っております。

なお、この説明会は質疑応答部分も含めまして、全文を書き起こして公開の予定でございます。したがって、質問の際、会社名、氏名を名乗られた場合は、そのまま公開でございますので、よろしく申し上げます。もし匿名を希望される場合は、質問の際、氏名を名乗らないように、よろしく申し上げます。

それでは、質問のある方、いかがでしょうか。ありがとうございます。

トミタ：エイチ・エス証券のトミタと申します。ありがとうございます。

1点お伺いしたいところがありまして、調剤薬局事業の概況で、売上の推移で処方せん枚数が減少しているが、1枚当たりの単価は増加ということですが。こちらはコロナ禍での何か特別な要因があっての1枚当たりの単価が増加になっているのでしょうか。これは一過性の要因ではなく、今後引き続き増加の傾向になるのか教えていただければと思います。

南野：ただ今のご質問は、処方せんが減少したにもかかわらず、1枚単価がなぜ上がったのかということを探ねていただいているということですのでよろしいでしょうか。

昨年4月、5月は、非常にコロナ禍がどういうふうになっていくのかということも、医療側も、診察側の先生も、それから患者さんもよく分からない状況の中で、とにかく医療機関に来ることもリスクが高いという中で、処方せんの投与日数が変わったということですね。

今まで60日受け取っていた人が90日になりましたので、そうすると、その日数が増えた分だけ来局する患者の数が減っていくと。一方で、1枚単価は上がっていくということでもあります。これは、この3月31日までのことございまして、4月からは薬価が落ちましたので、それがどのように影響するかは分からないわけでありまして、昨年までは、処方日数が長くなったことによって枚数が減って、1枚単価が上がったというのが結論でございます。よろしいでしょうか。

トミタ：ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。他にご質問、いかがでございましょうか。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質問者：6 ページのところですけども、調剤薬局のセグメント利益が 2.5%増益だった要因について教えてください。減収だったのに増益の要因についてです。

南野：四半期決算の表で、先ほどご説明をさせていただいたのと、労務費率がほぼ変わらなかったということでございまして。労務費額が減少になったと。それと、薬の購入も少し良化をしたのかも分かりません。よろしいですか。

質問者：もう 1 点よろしいでしょうか。

南野：はい。

質問者：今期のご計画ですけども、23 ページのところ。営業利益で前年比プラス 2 億 1,000 万円増益になると思うんですけども、セグメント別で何が主に増益になりますでしょうか。

櫻井：私から話をさせていただきます。

全体的に 36 期と比較しまして、利益は増加するというのを計画しておりますけれども。その中でも、先ほどもご報告させていただいておりますとおり、昨年、前期ですね、M&A をさせていただいておりますので、その影響がこの第 37 期には反映させていただいているということでご了解していただきたいと思います。以上でございます。

南野：インサイダーのこともございまして、当社は非公開でやっていますので、ご了解いただきたいと思います。

質問者：分かりました。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。他にご質問はいかがですか。

質問者：本日はありがとうございます。

足元でコロナが第 4 波と言われて、また拡大の様相を示していますが、それに対する対応などはどうされるおつもりでしょうか。

南野：それは、コロナに対する安全性の対策ということなのか、売上の対応なのか。

質問者：業績への影響をどう防ぐかということです。

南野：まず、先ほど申し上げましたように、昨年の 4 月、5 月と異なることは、医療機関も患者さんも、医療機関へ行って罹患する確率は低いという認識はあると思います。ですから、薬局にも出掛けてこなかった患者さんが、薬局は薬局なりに、それなりに安全対策を打っておりますので、特

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



に医療機関で診察をしてもらったり、薬局で薬をもらうことがコロナのリスクを高めるというわけではないというので、ほぼ診察行動については、戻りつつあると私は理解をしております。

ですから、当社の売上予算等につきましては、昨年よりはコロナの影響が良化するという中で予算を組んでおります。よろしいですか。

質問者：ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。他にご質問、いかがでございましょうか。

質問者：よろしく申し上げます。

前期のコロナの影響に関して、これは地域別で見ると、どんな濃淡があったのか教えていただけますか。

南野：やはり、当社の展開しているところでは、比較的人口密度が高いところは影響があったと思います。ですから、三重県とか、事業によっても違うんですけども。例えば、ヘルスケア事業でデイサービスは大阪とか京都になりましたら、患者数が多くなりましたので、やはり利用者がもう出てこなくなるというような期間がございました。

しかし、島根とか鳥取では患者数そのものがほとんどいなかったものですから、それほど利用者には影響しなかったと言えるかと思います。

質問者：今期の影響に関しては、ある程度想定されていると思うんですけども、どういう想定のおされ方をなさっているのでしょうか。

南野：これは、先ほど申し上げましたように、良化するということで決算を組んでいると。しかし、そのコロナがどうなっていくかは、これはわれわれが想像する範疇にはないと。しかし、われわれの決算につきましては、コロナの影響はワクチンも接種するということで良化していくであろうという決算を組んでおります。よろしいですか。

司会：ありがとうございました。他にご質問、いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは、質問がないようでございますので、最後に私から1点お願いでございます。冒頭をお願いしたアンケートへのご記入の件、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして、本日の決算説明会は終了でございます。どうもありがとうございます。お疲れさまでございました。

南野：ありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

